

U

I

TURN.2006

冬号



ところ変われば気持ち・変わる
おおいた流・働き方に
「一考」の価値あり

おおいた流

U・Iターンシリーズ
「おおいた人」

おおいた人のライフスタイル
徳永修一さん

Key Person

ちよい先輩の暮らし方&働き方

仕事術

おおいた流 週末らいぶ

大分ってこんなところ!

ポジティブアクション

- ・UIターン体験記
- ・回塊の世代、応援します!

INFORMATION

U・I TURN.2006

シリーズ「おおいた人」 徳永修一さん

●とくなが しゅういち
宇佐市/56歳
株式会社徳永装器研究所代表取締役



35歳で大手企業を辞め、
福祉機器開発への漠然とした
思いを抱いての帰郷。
不安はありませんでしたか？

特に不安はありませんでした。U
ターンする前は日立の中条工場（新
潟県）で、ATM（現金自動預払機）
の設計をしていました。家に戻って
夕食を食べたらまた会社に戻り、深
夜から時には未明まで仕事という毎
日。そういう生活の中で、この先、
ずっと同じ仕事を続けるのもどうか
と思いました。価値観の問題ですが
収入は減っても、やり甲斐のある事
を何かやりたい、自分の経験と技術
を生かして、生涯現役でやっていき
たいと思っただけです。いずれは宇佐
に帰りたいと思っていたので、35歳



福祉に興味を持った
きっかけは？
独立当初は苦労も多かったと
思いますが、
志しが揺らいだことは
ありませんでしたか。

ある日曜に立ち寄った新潟の書店
で、「街の小さな木工所から」（竹野
広行著・はる書房）という本をみつ
けたのがきっかけです。障害児の道
具作りの工房を東京で上げた同世
代の佐世保高専OBの本でした。こ
ういう生き方もあるんだなあと。そ
れから福祉機器の開発に興味を持っ
ようになりました。ところが、宇佐
に戻ってその工房へ訪ねてみると、
まだ福祉では食べていけないことを
痛感しました。それで就職雑誌を見
て地元の日本抵抗器大分製作所に就
職したんです。でも起業したいとい
う気持ちが高まってきて、12年間勤
めた後、田舎退社、今に至っていま

エンジニアの仕事に終わりはありません。 Uターンして起業したことで、故郷や友人など 地域の財産を得ることができました。



す。工場長には採用の際もお世話に
なり、今も経営のことなどご指導い
ただいています。
独立してからは、気持ちが揺らい
だことはありません。日本抵抗器で
は電子機器組立の生産管理部長をし
ていて、福祉にその技術を生かさう
と考えたんです。誰もやっていな

つたし、絶対必要になるだろうと。
そして独立する前からALS協会（筋
萎縮性側索硬化症患者と家族の会）
に参加し、土日は大分に通いました。
起業後はナースコールにはじまり、
マウスセンサーやPC用口マウスな
どいろいろ造ってききましたね。
経済的にもゼロからのスタートで、
退職1年目の平成8年は失業保険を
もらいながら国際福祉機器展（東京）
を見学したり、福祉講演会に参加し
ました。退職2年目に創業しました
が売上収入は全く、妻のパート収入
で食べていました。一生懸命やって
いれば、食べて行けるだろうという
思いがありましたね。そのうち介護
保険制度が始まり、段々売上げが良
くなって収入も増えてきました。自
宅の一角からスタートし、今はJA
ライスセンターだった倉庫を事務所
兼工房兼展示室として使っています。
社員も大分事務所とあわせて15人
になり、事業内容も広がりました。



プロフィール年表

- 1950年 大分県宇佐市生まれ
- 1966年 大分工業高等専門学校機械工学科に入学
- 1971年 同校を卒業し、(株)日立製作所に入社。山口県の柳井工場を経て中条工場へ
- 1985年 宇佐市にUターンし、日本抵抗器大分製作所に就職
- 1996年 日本抵抗器大分製作所を退社後、徳永装器研究所を設立
- 1998年 有限会社徳永装器研究所として法人化
- 2003年 株式会社徳永装器研究所に改組
- 2006年 第3回大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞受賞

プライベートタイム

- 家族**
妻、長男(名古屋で福祉施設に勤務)、長女
- 趣味**
テニス(毎週、宇佐ローンテニスクラブで)
読書(起業してからは創業者の本が中心)
囲碁(高専時代から)
- 好きな言葉**
「和を以て貴しとなす」
- 信条・モットー**
誠実、感謝、努力
- ボランティア活動など**
難病患者の患者会に入会して活動している

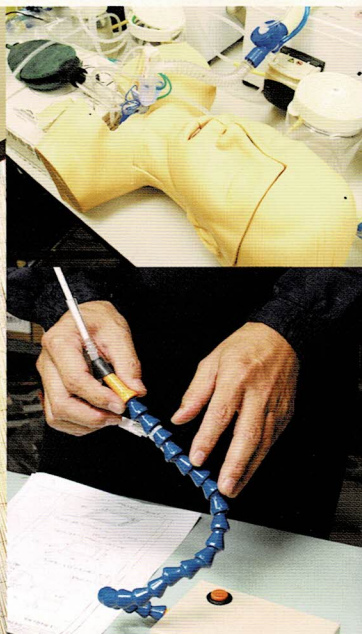
妻・克子さんからのエール!

新潟の頃は毎日帰宅が遅かったですが、子供が3、4歳だったので安定した日立を辞めることに驚き、不安でした。でも、夫の気持ちの方が強かったですね。戻ってからは、「すぐに独立は無理よ」とお願いして就職してもらいました。独立した時は子どもが大学と高校だったので、不安も大きくて…。厳しい環境だったからこそ、アイデアが出たのかもしれないでしょうか。一時期はパートで働きながら夜、経理を手伝っていましたが、不思議と辛いと思わなかった気がします。これからはパートで働いて、皆に喜ばれる商品を開発してください。



インタビュー
岩崎朋美
(大分市在住/津久見市出身)

TVレポーターやDJとして多数のレギュラー番組を持ち、絵描き人としても活躍中



**起業における成功の秘訣は？
現在の取り組みと
将来の展望を
聴かせてください。**

起業を志したころ、県庁の商工労働部を訪ね、いろいろな創業支援制度を教えてくださいと、大分県

16になりました。
故郷の思い出はたくさんあります。大分高専の4期生で、松尾春雄校長先生のもと、新しい学校を築いていくという気運があふれていて楽しかったです。寮では1年の時は廊下で机とベッドを並べた12人部屋でした(現在は2人部屋が基本)。四日市中学校と高専時代は卓球に打ちこみ、日立でも卓球を続け山口県でベスト4に入ったこともあります。女子の監督も務め、全日本実業団でベスト



**Uターンについて、ご家族の反対はありませんでしたか？
故郷の思い出と帰郷して
良かった点を教えてください。**

妻も宇佐出身で、見合い結婚。子どもも小さかったので問題はありませんでした。帰郷して良かったのは、子どもたちに故郷を与えることができたことです。あのまま日立に勤めていたら、子どもたちは新潟の人になっただけでしょう。

産業科学技術センターや大分県産業創造機構、工業団体連合会などを紹介してもらいました。福祉機器の研究グループにも参加するなど、産学官のネットワークの構築が功を奏したと思います。さらに情報収集や人の交流ができたことで、単独での弱さをカバーし精神面の支えになりました。

大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞を受賞した「自動痰吸引装置」は、「おおいだビジネス伸入プロジェクト」事業を活用しながら、大分県立病院や高田中央病院、永松神経内科クリニック、大分協和病院の先生方に協力いただき生まれたものです。試作機づくりの5年を費やしました。特許も7件申請中です。今は商工会議所の「OB人材マッチング事業」で人材を強化し来年春を目標に、世に出すことに取り組んでいます。その後はまた世の中に役立つ何かをみつけ、造っていくでしょう。

創業に当たっては、①今までの経験と技術を生かして強みのある技術を磨く、②ねばり強くコツコツと続ける、③ネットワークを大事にすることなどが大切だと思います。技術者というのは、一つ壁を越えたら、また次の壁に向かって行きたくなるもので、エンジニアの仕事に終わりはありません。